



平成 23 年 12 月 26 日 発行 第 5 6 号

国際フィッシングショー2012

Japan Fishing Festival

出展社説明会・記者発表会開催される

(社)日本釣用品工業会では、JAFF委員会(加藤誠司委員長)を中心に、明年3月23日より3日間、パシフィコ横浜にて開催する「Japan Fishing Festival ～国際フィッシングショー2012～(以後、JAFF2012という。)」に関する準備作業を行っておりますが、先日、「出展社説明会」および「記者発表会」を開催しましたのでご報告します。

■出展社説明会

去る10月14日(金)、東京・八丁堀:エンパイヤビル会議室にて「JAFF2012」出展社説明会を開催致しました。

当日は、出展社および施工関係者など約100名近くが出席し、先ず主催者を代表して加藤委員長が出展のお礼と挨拶を述べられ、釣り業界全体を盛り上げるためにも主催者の用意した様々な企画へのご協力を出展社にお願い致しました。

引続き、運営事務局の担当者より出展要項、各種申請書類、お願い事項等を説明し、その後、小間割抽選会を実施し、各出展社の代表による抽選を行い図面から希望の小間位置を申請致しました。

最後に 藤井治幸 JAFF委員会副委員長が閉会挨拶し、出展社の皆様のご協力を重ねてお願いされました。



CONTENTS

- ・出展社説明会・記者発表会……………P1～2
- ・理事会及び各委員会活動のご報告……………P3～4
- ・2012年度「JAFTMA WEB グランプリ」…P5
- ・「環境協力シール」湖底海底清掃の現況 ……P6
- ・会員クローズアップ (NO. 10) ……………P7
- ・釣具の輸出入推移表 ……………P8
- ・会員動向 ……………P9

■記者発表

去る12月15日(木)、日本フィッシング会館8階会議室にて「J A F F 2012」記者発表会を開催致しました。

当日は、スポーツ紙、釣り雑誌、一般雑誌などメディアの方々に出席頂き、先ず当工業会の小島副会長が挨拶し、「3.11 東日本大震災」により、「Japan Fishing Festival ～国際フィッシングショー2011～」が中止に至った経緯を述べた後、当工業会では、5月28日に横浜/本牧海釣り施設にて復興チャリティ釣り大会を、また7月31日に山梨県の「FISH ON 鹿留」にて「チャリティー・フィッシング・フェスティバル」を開催して釣り業界から東日本復興への機運を盛り上げて参りましたが、その総決算として、今回の「J A F F 2012」を位置付けていることを説明されました。

引続き、加藤 J A F F 委員長が挨拶し、「J A F F 2012」のポイントについて説明されました。

先ず、出展申込状況について、本日段階での有償小間出展申込社数は149社・団体、総小間数は626小間の規模となっており、前年対比では、出展社数にして23社・団体の減少(約13.4%ダウン)、小間数にして35小間の減少(約5.3%ダウン)と厳しい状況ではあるが、3.11を考慮致しますと、出展社様には大変ご健闘いただいたと考えますと述べられました。

次に、主催者イベント企画の見どころとして、次の通り紹介されました。

先ず、昨今の「釣りガール」の人気を受け、新企画「釣りガールズコレクション2012」をおこないます。

これは、一昨年の「AICA」、昨年の「ひなたさゆり」につづき、今年度も実施する「Angler's Idol 2012」の最終公開審査会に参加するファイナリストたちにモデルになっていただき、各社の女性用ウェアをミニファッションショーの形式でご紹介するという企画です。実際のファイナリストの審査対象にはなりません。ファンの方々にはいわゆる「釣りガール」としての着こなしをファイナリストがどのようにおこなうのか見て頂くものです。

その他、ご家族連れに楽しんで頂いている「マス釣りコーナー」は、前回同様2面のプールで実施します。好評頂いている「お魚グルメパーク」は、今回も規模を拡大し、さらに新しい試みも検討致しております。今回で7回目となる「クールアングラーズ・アワード」の授賞式を行います。また、会場では様々なプレゼント企画も用意していますと紹介されました。

また、コアファン向けの企画として、例年人気を博しております、アングラの特技を間近に見られる「The Meijin のデモンストレーション」。女性ならではのトークが聞ける「女性アングラ大集合!」は、「新しい若手有名アングラ or 名人の積極的な登用」そして、フェスティバルにふさわしい豪華さをもつ「大集合的演出」の2つの観点から、現在最終的な出演交渉に入るところでございます。

このように、業界全体の活性化に繋がるように、できるだけ様々な仕掛けをおこなうよう努めていますので、是非とも積極的な報道でのご協力を仰ぎたい旨お願い致しました。

続いて安藤栄信専務より、「J A F F 2012」の開催概要を詳細に説明致し、記者発表会は無事終了致しました。

また、記者発表会終了後、会場を6階に移し記者懇親会を開催し、親しくメディアの皆様と懇談致しました。



理事会及び各委員会活動のご報告

去る、平成23年12月15日(木)に、日本フィッシング会館8階会議室において、「第101回理事会」が開催されましたのでご報告いたします。

***第1号議案 「委員会活動報告に関する件」**について、各委員長より議事録に基づき報告されました。

① 「JAFF 委員会」

- ・「国際フィッシングショー2012」は「フィッシングフェスティバル」として多くの企画を計画しておりますが、その準備状況が報告されました。
- ・出展申込状況の報告があり、有償出展申込社総数及び有償小間総数とも前年を若干下回っている状況が報告されました。

② 「環境保全委員会」

- ・「認定・環境保全マーク事業 (eマーク事業)」に関して、「環境保全マーク対象用品別拠出金及び申請手数料は負担なしとする。」ことで承認されました。今後eマーク商品の拡大が期待されます。
- ・12月6日に「第4回エギ環境対策検討会議」が開催され、平成24年7月1日から事業を開始することになったとの報告があり、承認されました。同時にエギを取り巻く各地での状況について報告がありました。
- ・経産省より「RoHS指令(有害物質使用制限令)の改正」についてご指導があったとの報告がありました。

③ 「規格・安全委員会」

- ・JAFS規格の規定審議についての進捗状況の報告があり、「釣用リール部会」で検討されていまして「釣用リール仕様項目の表示及び測定項目」が承認されました。同基準の実施時期を2013年からとすることも承認されました。
- ・また、「釣糸部会」で検討されていまして「ライン強度の測定基準、試験方法、強力表示方法」についても承認されました。
- ・製品安全対策関連につきましては、「膨張式ライフジャケット講習会」をFショー大阪・横浜両会場で開催するとの報告があり、承認されました。
- ・知的財産関連につきましては、「第5回知的財産情報セミナー」が好評理に開催された旨報告されました。詳細は4頁の「第5回知的財産情報セミナー開催」をご覧ください。

④ 「広報・調査委員会」

- ・広報関連事業に関して「ロイヤルアングラマー賞」について進捗状況の報告があり、承認されました。
- ・需要動向調査についての掲載内容について報告がありました。

***第2号議案 「環境保全事業計画(案)に関する件」**について、以下の提案があり、いずれも承認されました。

① 「琵琶湖レジャー利用適正化審議会への提案について」

- ・滋賀県では現在「琵琶湖レジャー利用適正化基本計画の策定」に向けて審議会が開催されていますが、地元団体から滋賀県知事宛に、外来魚リリース禁止違反に罰則を設ける、ワ

ーム等プラスチック製疑似餌の全面使用禁止、等の提案が出されている状況が報告され、当工業会として適切に対応して行くことで承認されました。

② 「ビジョン 2012 策定に関する件」

・現在企画プロジェクトを中心として、釣り業界全体の長期的な環境対策等の事業計画の基礎として利用するために、釣り関係業界の企業様・団体様を対象に平成 24 年 1 月にアンケート調査を行いたいとの報告があり、承認されました。ご協力をお願いいたします。

*** 第 3 号議案 2012 年度「JAPAN BIG FISH GRANDPRIX (以下 JBFG に略) 実施計画 (案)」に関する件**

① 2012 年度より、日釣工「JBFG」を模様替えして、「JAFTMA WEB グランプリ」として、「JBFG」と「ウイークリー グランプリ」の 2 つの大会を実施し、釣具業界の活性化を図る旨報告があり、承認されました。スポンサーになっていただいでご協力をお願いいたします。

なお、詳細は、「2012 年度 JAFTMA WEB グランプリ 実施のご案内」をご覧ください。

*** 第 4 号議案 「入退会に関する件」は報告事項であり問題なく承認されました。**

*** 第 5 号議案 「平成 23 年度中間決算監査報告」が監事よりあり、問題なく承認されました。**

*** 第 6 号議案 「日釣工の一般社団法人認可申請に関する件」について、「日釣工定款の追加・修正」、及び「日釣工における実施事業 (案)」について説明があり、特に問題なく了解されました。**

*** 第 7 号議案 「その他の報告承認事項」について**

① 「ワーム湖底・海底清掃事業」実施状況について、「平成 23 年度ワームシール収支計算書見込 (案)」について説明があり、特に問題なく承認されました。

② (株)がまかつ様からのご寄付に関して、特定資産として「特定預金」に繰り入れることで承認されました。また、「表彰・顕彰規程」に則り感謝状と記念品が小島副会長より、(株)がまかつ代表取締役副社長藤井治氏に贈呈されました。

③ その他の事項については特に問題なく了承され、無事終了いたしました。

第 5 回・知的財産情報セミナー開催

規格・安全委員会 (藤井治幸委員長) では、平成 23 年 11 月 24 日 (木)、日本フィッシング会館 8 階大会議室で、「模倣品対策」に関する第 5 回知的財産情報セミナーを開催し、関係企業の担当者 30 名程が出席致しました。

今回のセミナーは、業界の知的財産に対する認識とモラル向上を目指すことを目的に実施したもので、講師には東京税関業務部知的財産調査官である江口広宣氏を招き、「税関による知的財産侵害物品の取り締まり」をテーマに研修致しました。

研修会では、先ず、税関における知的財産侵害物品の取り締まり対象として特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、著作隣接権、育成者権、不正競争防止法があり、輸入差止申立・輸出差止申立することが出来ること等を説明致しました。

引き続き、輸入差止申立の手続きにおける受理要件としては、「権利者であること」、「権利の内容に根拠があること」、「侵害の事実があること」、「侵害の事実を確認できること」、「税関で識別できること」などを説明されました。

その後、最近の差し止め申立状況と輸入差し止め実績、その水際取締制度、財務省による対応策、また輸入差し止め申立書の記載例などについて分かりやすく約 1 時間にわたって説明されました。

2012年度 「JAFTMA WEB グランプリ」 実施のご案内

沈滞気味の釣具市場を活性化させようと、WEB上の大会「アングラーズチャンス ソルトトーナメント」を実施いたしました。スポンサーになっていただきました会員企業様はもとより、多くの方々にご支援・ご協力を賜りありがとうございました。おかげ様で初年度としてはまずまずの成果を上げることができました。

しかし、当工業会主催の「JAPAN BIG FISH GRANDPRIX (以下JBFGに略)」は知名度も低く参加者も少ない状態が続いております。

そこで、当工業会の「JBFG」を模様替えして、「JAFTMA WEB グランプリ」としてこの2つの大会を実施し、釣具業界の活性化を図ることになりました。

「JAFTMA WEB グランプリ」

①「JAPAN BIG FISH GRANDPRIX」

②「ウイークリー グランプリ ○○」

(例)「ウイークリー グランプリ ヒラメ 第1戦」

(サブ大会として、活性化を図ります。)

大会概要ですが、

- ① 対象魚：ニジマス、タイ、チヌ、ヒラメ
- ② 「JBFG」は平成24年1月1日から同年12月31日までの年間大会、「年間大物賞」に1本化
- ③ 「ウイークリー グランプリ ○○」は、年に春・秋それぞれ2回、合計8回開催
- ④ 参加は、「JAFTMA WEB グランプリ」に会員登録(無料)しておけば、「いつでも、どこでも、誰でも」参加できます。

*** スポンサー募集 ***

会員企業様にはスポンサーになっていただき、「JBFG」及び「ウイークリー グランプリ ○○」、2つの大会にご協力をお願いいたします。

スポンサー形態は2種類です。

- * オフィシャルスポンサー
- * 一般スポンサー

賞品協賛は、大会参加者数に応じて異なります。

概ね大会参加者が100名未満の場合は、2大会につき1回程度の賞品を提供していただくこととなります。

是非当工業会事務局までお申込みください。

なお、参加者も多く好評でした「アングラーズチャンス ドリームマッチ」は継続して実施しますので、こちらの大会にもご協賛をお願いいたします。

「環境協力シール」湖底海底清掃の現況

平成23年1月1日以降のメーカー出荷分からワームパックに「環境協力シール」が貼付され、このシールの貼付された商品の売り上げの一部を湖底海底清掃の資金として使わせて頂いております。

湖底海底清掃の資金は、日釣工ではプロのダイバーを使った湖底清掃活動と(財)日本釣振興会の湖底海底清掃事業への委託事業費として活用させて頂いております。

本年度の日釣工の湖底清掃は、9月より西は緊急性の高い琵琶湖、東は霞ヶ浦・高滝湖・亀山湖の4か所で進めており、12月10日現在、7ヶ所・延べ日数で34日間行っております。内訳は、滋賀県琵琶湖で3ヶ所・霞ヶ浦(茨城県と千葉県)で2ヶ所・千葉県高滝湖と千葉県亀山湖で各1ヶ所で行い、ワームの回収数は、合計10,116個を数えました。特に数が多かったのが、琵琶湖・大津市のなぎさ公園で5日間に5,262個のワームを回収しました。

ワームもたくさん回収しましたが、一般ゴミ・不法投棄ゴミも大量に回収しており、回収総重量は13,443kgになりました。一般ゴミに比べ釣用品の占める割合が非常に少ないと言えます。

私たちの活動の目的は、ワーム回収が第一ではありますが、釣り場の環境保全・河川の環境保全も大切な責務として認識しております。

実施報告を当工業会のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

湖底清掃作業風景



琵琶湖・大津市なぎさ公園で回収したワーム



なぎさ公園での水中作業



琵琶湖・守山市での湖底清掃



守山市での一般ゴミ

社団法人 日本釣用品工業会 ジャフタマ・ニュース
第10回目となる今回は、「水辺の安全と環境保全」を
社是に、優れた品質の製品を世界のユーザーにお届け
している高階救命器具株式会社様をお訪ねしました。

会報 第56号

会員クローズアップ NO. 10

高階救命器具株式会社様

本社：大阪府大阪市浪速区久久保吉 1-1-30 TEL06-6568-3512

URL：http://www.tlpc.co.jp/

会社の沿革・概要

当社は1935年に創業し昨年創業75周年を迎えました。創業当初より「水のある所の安全とその環境保全を通じて、社会に貢献する製品造りに邁進する」の企業理念の



もと製品の開発、生産そして販売を行っています。

当社は国土交通省の認定製造事業所として多数の型式承認を所有しており、主力製品は救命器具用品、オイルフェンス・シルトフェンスになります。販売先は釣具業界を始め、船舶業界、マリレジャー業界、海洋土木業界です。1991年より海外市場に注力し現在では生産高の7割は海外へ輸出しております。

また、救命胴衣の着用に関する啓蒙活動の一環としてフィッシングショーでの説明会、イマーシヨンスーツのメンテナンスに関する講習などにも力を入れており、水難事故による被害の減少につながればと期待しております。



トピックス

当社はいかに救命胴衣の着用率を高めるか、という課題に対する一つの回答としてこの秋に新商品「BSJ-VT01」の開発、販売に至りました。救命胴衣と言うと「オレンジ色」「格好が悪い」などといったイメージを持たれる方が多いようで、「ちょっと釣りでもしてみようかな」という方にはその着用抵抗があったようです。そこで「ファッション性を第一に作ったら着てもらえるのでは？」と考えて開発したのがこの商品です。

ダウンジャケットと見間違える商品に仕上がりましたのでお客様の反応が楽しみです。

また当社はこれからの取り組みの一つとして、「無検品の撲滅！」(国の基準に準じないもの)の旗を立ち上げました。



人の命を預かる救命胴衣である限り、その品質を維持、保証するためにも「検定品にあらずは救命品にあらず」の信念のもと当社内、外を問わず無検品の排除を進めていきます。

社長の一言

膨脹式救命胴衣が釣り人に受け入れられライフジャケットの着用率は年々増えていますが、依然として水難事故は絶えません。釣具業界と共に引き続き着用率が上がるよう活動が続けていきたいと思っています。

我々はお客様のニーズを理解し、新しい製品開発を続けること、そしてユーザーが解りやすい売り場(プレゼンテーション)を目指しています。釣具業界の皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

釣具の輸出入推移表(財務省通関統計より)

輸出高(金額 FOB、千円)

年 (暦 年)		2009 (平成21年1月～6月)				2010 (平成22年1月～6月)				2011 (平成23年1月～6月)			
品 目 名	数量単位	数 量	伸び率	金 額	伸び率	数 量	伸び率	金 額	伸び率	数 量	伸び率	金 額	伸び率
釣 竿	pcs	3,122,192	▲52.1%	1,335,965	▲36.8%	4,690,694	50.2%	1,581,291	18.4%	12,301,235	162.2%	2,697,306	70.6%
釣 針	千GS	5,365	▲17.8%	1,976,439	▲1.0%	5,908	10.1%	2,012,112	1.8%	6,258	5.9%	2,190,305	8.9%
擬餌針	GS	74,747	▲49.9%	946,670	▲25.8%	109,273	46.28%	1,171,211	23.7%	101,920	▲6.7%	1,130,311	▲3.5%
釣用リール	pcs	3,151,069	▲44.0%	2,422,510	▲31.0%	2,719,520	▲13.7%	2,768,648	14.3%	2,529,982	▲7.0%	3,021,993	9.2%
その他(たも網、捕虫網、および狩猟用具類)	—	—	—	1,954,688	▲24.8%	—	—	2,110,030	7.9%	—	—	1,267,758	▲39.9%
輸 出 高		—	—	8,636,272	▲24.9%	—	—	9,643,292	11.7%	—	—	10,307,673	6.9%

輸入高(金額 CIF、千円)

年 (暦 年)		2009 (平成21年1月～6月)				2010 (平成22年1月～6月)				2011 (平成23年1月～6月)			
品 目 名	数量単位	数 量	伸び率	金 額	伸び率	数 量	伸び率	金 額	伸び率	数 量	伸び率	金 額	伸び率
釣 竿(部品を含む。)	pcs	2,667,604	▲3.6%	5,538,078	▲11.2%	3,061,711	14.8%	5,512,081	▲0.5%	2,088,938	▲31.8%	4,953,287	▲10.1%
釣 針	千GS	21,344	5.8%	1,523,159	8.2%	38,747	81.5%	1,083,401	▲28.9%	37,549	▲3.1%	908,257	▲16.2%
釣用リール	pcs	2,766,162	▲10.1%	2,664,119	▲16.5%	2,932,064	6.0%	2,489,245	▲6.6%	2,126,231	▲27.5%	2,459,555	▲1.2%
その他のもの	—	—	—	4,234,929	10.5%	—	—	4,497,319	6.2%	—	—	3,854,126	▲14.3%
輸 入 高		—	—	13,960,285	▲4.8%	—	—	13,582,046	▲2.7%	—	—	12,175,225	▲10.4%

社団法人 日本釣用品工業会

会 員 動 向

※第74回常任理事会、第100回、第101回理事会で次のとおり入会3社、退会5社が承認されました。

＜ 入会会員 ＞

(第74回常任理事会)

◆(株)オオモリ 代表者・大森 勉
〒110-0015 東京都台東区東上野 1-10-3
TEL03-3832-8111 Fax03-3832-8113

(第100回理事会)

◆(株)釣王 代表者・谷山 洋
〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津 2-7-3
TEL092-624-7026 Fax092-624-7028

(第101回理事会)

◆(株)アピア 代表者・宇津木 善生
〒630-0015 大阪府大阪市西区南堀江 1-14-26
中澤唐木ビル 5B
TEL06-6536-5002 Fax06-6536-5003

＜ 退会会員 ＞

(第74回常任理事会)

◆(株)マルト 代表者・太田 博文
〒733-0003 広島県広島市西区三條町 3-23-11
TEL082-238-7667 Fax082-237-2525

(第100回理事会)

◆(株)ノースクラフト 代表者・北出 弘紀
〒922-0331 石川県加賀市動橋レ 1-1
TEL0761-75-3358 Fax0761-75-4830

(第101回理事会)

◆(株)レイン/代表者・青木 政幸
〒327-0302 栃木県佐野市白岩町 6-15
TEL0283-67-7080 Fax0283-67-7081

◆(株)プラスゲイン/代表者・今井 正博
〒506-0807 岐阜県高山市三福寺町 1582-1
TEL0577-36-6252 Fax0577-36-1296

◆エイムス/代表者・橋本 景
〒267-0066 千葉県千葉市緑区あすみが丘 4-1-8
TEL043-295-3808 Fax043-295-3808

※会員企業新代表者就任のお知らせ

◆東レインターナショナル(株) 代表取締役社長に 本地 宏氏が就任されました。

◆(株)ヤマリア 代表取締役に 山下 整治氏が就任されました。

◆バスデイ(株) 代表取締役社長に 有馬 智也氏が就任されました。

◆(株)津田商会 取締役会長に 津田 勝久氏が、代表取締役社長に 津田 靖久氏が就任されました。

※移転のお知らせ

◆(株)ウイングは下記へ移転しました。
〒332-0034 埼玉県川口市並木 2-26-3-301
TELとFaxは変更ありません。

◆(株)ハートフル・ジャパンは下記へ移転しました。
〒673-0456 兵庫県三木市鳥町 641-1
TELとFaxは変更ありません。

※会社組織変更のお知らせ

◆有限会社ウォーターハウスは、株式会社ウォーターハウスに組織変更いたしました。

☆☆☆☆☆☆ 事務局 だ よ り ☆☆☆☆☆☆

◆ 今年は3月11日の東日本大震災と津波、福島第一原発の事故による未曾有の災害の発生により、「Japan Fishing Festival～国際フィッシングショー2011～」が中止となったのをはじめ、釣具業界は直接的にも間接的にも多大な影響を受けました。現在纏めの最終作業を進めております「第15回 釣用品の国内需要動向調査報告書」にも反映された結果となりました。なお、来年1月にはお手元に届けられる予定です。

会員の皆様へは、1冊は無料配布させていただきますが、購入をご希望の方はご連絡お願いいたします。

会員価格 1冊 3,000円
一般価格 1冊 20,000円

◆ 「新公益法人制度」が改正され、当工業会は一般社団法人への移行を目指しておりますが、来年6月の申請に向けて、「定款の変更」及び「公益目的支出計画作成」を中心に申請資料作成作業を行っております。

◆◆ はや年の瀬、来年も厳しい状況は続きそうですが、少しでも明るい年になりますよう、会員企業の皆様には今後のご健闘をお祈り申し上げます。

